

Chiba University

Financial Report 2014

平成25事業年度 財務レポート

平成25年4月1日～平成26年3月31日

Contents

学長メッセージ

- 1 学長メッセージ
- 2 TOKUHISA PLAN 2014

最新のトピックス

- 3 最新のトピックス

平成25事業年度のトピックス

- 5 教育
- 8 学生支援及び学生の活躍
- 10 研究
- 11 社会連携
- 12 診療
- 13 大学機能強化

- 14 理事メッセージ

平成25事業年度決算のポイント

- 15 貸借対照表の概要
- 17 損益計算書の概要
- 19 財務指標
- 21 財務諸表等の計数推移

その他の財務情報

- 23 運営費交付金、自己収入及び外部資金等の受入金額の推移
- 25 補助金による主要な教育研究プロジェクト

国立大学法人会計の仕組み

- 27 国立大学法人会計の仕組み

千葉大学憲章

●千葉大学の理念

つねに、より高きものをめざして

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

●千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかわりあいを持ち、普遍的な教養（真善美）、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

1. 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育ていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。
2. 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。
3. 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。
4. 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

2005年10月11日制定

ファイナンシャルハイライト（平成25事業年度）

（単位：百万円）

	H24	H25	増減(前年度比)
資産	222,309	234,705	12,396
負債	54,788	66,354	11,567
純資産	167,521	168,351	830
費用	60,498	63,162	2,664
収益	61,503	63,669	2,166
運営費交付金収益	16,244	15,748	△ 496
学生納付金収益	8,542	8,267	△ 276
附属病院収益	28,772	29,904	1,131
寄附金収益	1,287	1,414	127
その他の収益	6,658	8,337	1,679
当期総利益	1,006	507	△ 499

注) 本レポートでは、単位未満を四捨五入しているため、計・差引が一致しない場合があります。
詳細については、後の「平成25事業年度決算のポイント」を参照ください。

財政状態については、西千葉キャンパスの事務局本部棟、広域避難場所（サッカー場）や亥鼻キャンパスの立体駐車場、医学部記念講堂等の施設の改修・新営工事等を行ったことや、借入金による附属病院再開発（外来診療棟新営工事等）を実施したことにより、資産が約124億円増加し約2,347億円に、負債が約116億円増加し約664億円となっています。

運営状況については、附属病院において、看護師、コ・メディカル、医員等の雇用による職員人件費の増加、手術件数の増及び高額医療材料の増による材料費等が増加しており、また、改修工事等による移転費及び修繕費等の一般管理費の増加などにより、費用が約27億円増加し約632億円となっています。一方で、附属病院における平均在院日数の短縮、高い病床稼働率の維持等による附属病院収益の増加や補助金、受託研究費等のその他の収益が増加したことにより、収益が約22億円増加し約637億円となっています。

その結果、平成25事業年度は約5億円の当期総利益となっています。

学長メッセージ



千葉大学は、教育・研究を通じて優れた人材を養成し、もって地域社会の発展に貢献することを第一の目標にしており、その目標実現のために、学部や研究科の専門性や職種等の壁を越えて自由な発想で議論し、改革をすすめてきています。

教育面では、学生の海外留学に向けた支援体制や主体的に学べる学習環境を整備し、研究面でも、人類の発展に貢献するような研究成果を生み出すために、広く世界と連携した研究活動を強力にすすめており、いずれも「つねにより高きものをめざして」、広い視野をもって何事にも誠実に取り組む人材の育成を目指しています。

また、更なる教育・研究の活性化とそれらに基づく人材育成の強化に向け、競争的外部資金の獲得や社会との連携ばかりでなく、海外を含めた他大学との教育や研究面での連携を強化し、そのために必要とされる管理運営組織の構築と経営収支のさらなる改善などに、積極的に取り組んでいるところです。

昨年より、本学の最新の状況を本学を支えてくださる皆様に、Financial Reportをお届けします。

今回、お届けいたします「Chiba University Financial Report 2014」は、財務状況および平成25事業年度のできごとに加え、平成26事業年度のできごとについても一部記載し、身近で分かりやすい報告書となるよう心がけ作成いたしました。

本レポートを通じて、本学の活動状況をご理解いただき、皆様方からのますますのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

学長 徳久剛史

TOKUHISA PLAN 2014

– The Top Priority –

世界に輝く未来志向型の総合大学へ！

5つの目標

- 1 部局の垣根を越えた融合型教育・研究の推進
- 2 グローバル化と産学連携の強化
- 3 魅力的な次世代型人材の育成
- 4 国内外から信頼される千葉大学ブランドの確立
- 5 全教職員による協働体制の構築



「グローバル大学」から『スーパーグローバル大学』へ ～文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択！～

【概要】

千葉大学は、平成26年9月26日付けで文部科学省の「スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』」のタイプB（グローバル化牽引型）に採択されました。

『スーパーグローバル大学創成支援』は、我が国の高等教育の国際競争力の向上及び大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対して、制度改革と組み合わせ文部科学省が重点支援を行うものです。千葉大学は、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学を対象とした「タイプB：グローバル化牽引型」（採択24大学）として採択されたものです。

千葉大学では、平成24年4月に国際化の方針である『グローバル・キャンパス・千葉大学』を策定し、世界を先導する教育・研究を促進する大学を目指し、グローバルに活動する大学を推進するため、多様なプログラムの設置による魅力ある国際共同教育の推進など、様々な活動を展開しています。特に、平成24年度には、我が国のグローバル化を先導する大学として、文部科学省のグローバル人材育成推進事業〔全学推進型〕の全国11大学のうちの1つに採択され、「知識準備（Knowledge Reserves）高流動性（High Mobility）型グローバル人材」を育成するため、画期的な教育システム「skipwiseプログラム」に全学を挙げて取り組んでいます。

今回の採択を受けて、千葉大学は、これまでのグローバル人材育成の成果から、未来のグローバル人材として「人間力のある人材の育成」が必須であると認識し、日本を理解し日本をアピールできるグローバルな人材を育成することを目標に、様々な取組を推進していきます。徳久学長の強いイニシアティブの下、10年後には世界を代表する未来志向型大学となることを目指し、全く新しい大学に変革させることを念頭に、千葉大学を新生させる覚悟で改革を進めていきます。

🌀 グローバル千葉大学で育成する人材像

◆人間力のある人材の育成＝俯瞰＋発見＋実践

様々な事象を「俯瞰」し、そこからの新たな「発見」をもとに、エキスパートとして「実践」する人材

〔俯瞰〕 新たな学問体系をもつ教養教育で俯瞰力を身に付ける

〔発見〕 共同教育により新たな発見ができる能力を身に付ける

〔実践〕 文理生命科学融合の教育で実践力のある人材となる

🌀 10年後 2024年の新たな大学の「組織」を描く

4つのレベル（ガバナンス、学修制度、プログラム、グローバル・ネットワーク）の改革による新生



◆ガバナンス改革による新生

“新” 教養学部の設定、共学教育の拠点形成、全学教育運営支援組織の構築+SULA^(※)、教職員機能の充実強化

(※) Super University Learning Administrator



◆学修制度の改革による新生

飛び入学の拡大、多様な入試の実施、学事暦の見直し、学内教育制度の国際標準化



◆プログラム改革による新生

「ダブルメジャー制度」によるイノベーション人材育成（「TOKUHISA SCHOOL」）、留学のための「国際教養学プログラム」設置、国際日本学の必修化、セメスター派遣・受入プログラム、大学院ダブルメジャー・メジャーマイナー・プログラム



◆グローバル・ネットワーク改革による新生

海外キャンパスの設置、アライアンス交流の推進

🌀 大学独自の数値目標

－ 753（シチゴサン）＋1（タスイチ）計画 －

「7」－ 700科目の英語での授業を実施

「5」－ 50% 入学定員の半分（1,200人）が留学

「3」－ 3,000人の外国人留学生を受入

「1」－ 10% 入学定員の10%（240人）を多様な入試で受入



平成25事業年度のトピックス

I. 教育

秋入学（9月入学）の導入

先進科学プログラム（高校3年生対象・秋飛び入学）

千葉大学のグローバル化を進めるため、学内に設置した「入学時期の在り方に関する検討会」の最終報告（平成25年4月）を受けて、全国に先駆けて平成26年度から「秋飛び入学」を導入することを平成25年10月に決定しました。

平成26年7月からは、高校3年生を対象とした物理学コース及びFTコースへの入学試験を実施しています。

従来、先進科学プログラムは、将来の独創的な研究を担う個性的な人材を育成するため、特定分野において優れた能力や資質をもつ若者に、高校2年修了後の4月から入学（春飛び入学）し、大学で高等教育を受ける機会を提供していました。

9月入学（秋飛び入学）は、公立中高一貫校など新たなタイプの高校が増えたことで、学習進度や課外活動の状況が多様化し、生徒の進路決定時期が一律でなくなっていることや、国際科学オリンピックの日本代表選手に選出された生徒が、出場前に大学に飛び入学した場合には出場資格を失うことなどに着目し、導入を決定しました。

高校2年を修了して春入学／高校3年9月から秋入学

—— 特別な教育で個性と知性を引き出す

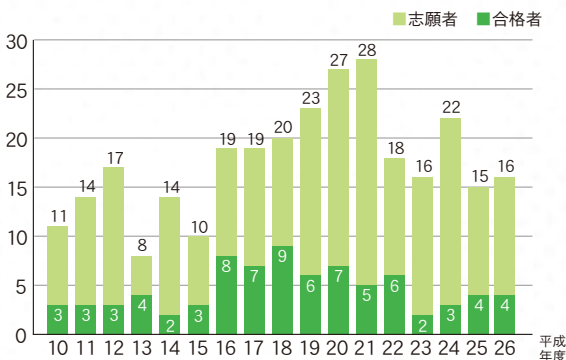
<先進科学プログラム最短のステップ>



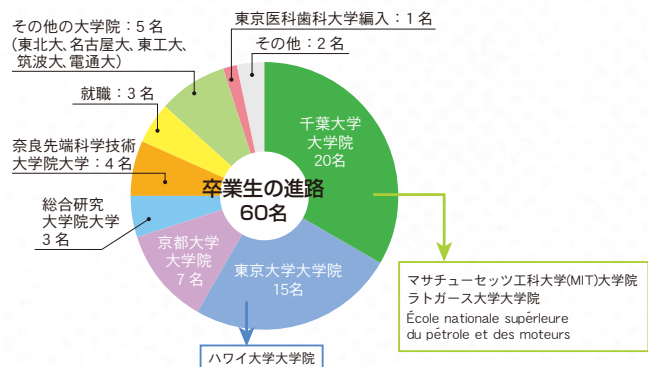
<通常のステップ>



志願者数と合格者の推移



卒業時の進路



グローバル化教育プログラムの推進

千葉大学では、以前から留学生を積極的に受け入れるなど、グローバル化に向けた動きがありましたが、平成22年度の文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に植物環境デザインングプログラム (P-SQUARE)が採択されたことで、全学的なグローバル化への取り組みが進みました。

さらに、平成24年度には文部科学省「グローバル人材育成推進事業」にスキップワイズ・プログラムが採択されたことで、「グローバル・キャンパス・千葉大学」としての展開が加速しました。

千葉大学は留学者数

523名
(JASSO平成24年度調べ)

国立大学2年連続

堂々第1位

Skipwise プログラム

スキップするように軽快に国際日本人になろう！

■ skipwise プログラムの内容



Skip & Skip

飛び入学や早期卒業を駆使した多様な修業年数に対応した、多様な留学プログラムの実施

Knowledge Stock

アクティブ・ラーニングを活用した第二の教養教育プログラム、「国際日本学」の新設

International Support

イングリッシュ・ハウスの活用、コミュニケーション英語の実施、海外留学情報などの提供・支援

Professional Experience

国際的なインターンシップやボランティア活動への参加支援

■ もう1つの合い言葉「飛考探留」



skipwiseプログラムを4つの漢字で表すと「飛考探留」。一飛び、考え、探求し、留学する一になります。この合い言葉で、学生の皆さんが「グローバル人材」として育っていくよう千葉大学は応援していきます。



◀千葉大学留学フェア



タイ・マヒドン大学に▶おけるBOOTプログラム (文化体験 (タイダンス))

グローバル人材を育成するその他のプログラム

ASEANで教育体験!

TWINCLE

ツイン型学生派遣プログラム

教育学研究科と他の研究科の大学院生がペアを組んでASEAN諸国を訪問し、現地の小中高等学校で先生となって、千葉大学が誇る先端科学研究や日本文化についての授業を実施します。グローバルマインドを持った人材(教員)を育成します。

日米欧でデザインを学ぶ!

CODE

大陸間デザイン教育プログラム

学部3.5年+修士2.5年の今までにない新たな6年間の学修年限の中で、1年間米国+欧州に留学してデザインを学びます。各国の特徴あるデザイン教育を受け、将来の産業を創成するグローバルなデザイナーを育成します。

植物で世界を救う!

P-SQUARE

植物環境デザインングプログラム

植物による環境貢献ができる国際的な「環境デザインプロフェッショナル」を育成します。日本人と留学生がチームを組んで問題解決を目指す教育研究を実施。アジア各国の大学と連携し、関連企業でのインターンも行っています。

高度専門職業人の養成

免疫システム調節治療学推進リーダー

文部科学省「平成24年度博士課程教育リーディングプログラム」に採択され、難治性の免疫関連疾患（アレルギー、自己免疫疾患、癌、心血管疾患等）に特化して、「免疫システムの調節」という視点からグローバルに活躍する「治療学」を推進するリーダーとして活躍できる人材の養成を目指します。

平成25年度から、第1期生として医学薬学府4年博士課程14名の俊英が本コースに参加し、本格スタート！



免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラムキックオフシンポジウム（第1回国際シンポジウム）

災害看護グローバルリーダー

文部科学省「平成24年度博士課程教育リーディングプログラム」に採択され、平成26年4月に、我が国初の国公立大学院共同教育課程である共同災害看護学専攻を開設し、2名（5大学計11名）を受け入れました。

災害看護学の構築とリーダーとしての実践能力を備えた人材の育成、輩出を目指します。



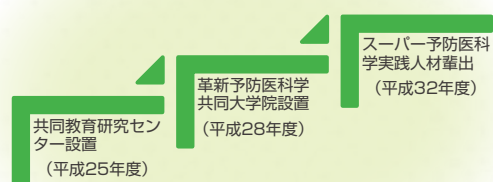
共同災害看護学専攻キックオフ・セミナー



共同災害看護学専攻 合同開講式

スーパー予防医科学の実践を可能とする人材

文部科学省「平成24年度国立大学改革強化推進事業」に「真の疾患予防を目指したスーパー予防医科学に関する3大学（千葉・金沢・長崎）革新予防医科学共同大学院の設置」が採択されました。0次予防（遺伝子と疾病リスク）から3次予防（疾病の再発予防）までを包括的・縦断的に取り扱う新しい予防医科学を構築し、それを実践できる人材を養成するため、平成28年度からの受入れを目指します。



Ⅱ. 学生支援及び学生の活躍

アカデミック・リンク

アカデミック・リンクでは、静かな学習環境だけでなく、議論や発表のできる空間、紙や電子媒体による教材やコンテンツ、そして学生の学びへの人的サポートを提供しています。

附属図書館を中核として、3つの機能を提供することにより、「学習とコンテンツ（学習のための多様な資料群）の近接による能動的学習」を実現します。

－ 平成25年度における取組状況 －

◆アクティブ・ラーニング・スペース

- ・平成25年度入館者のべ52万人弱（参考：平成22年度のべ49万人）
- ・1210あかりんアワー62回開催（約1,600人参加）

◆ティーチング・ハブ

- ・アカデミック・リンク・セミナー 5回
- ・学習支援デスク 利用実績：421人

◆コンテンツ・ラボ

- ・電子教材の開発及び活用に関する共同研究部門設置（平成25年7月）
- ・大学学習資源コンソーシアム設置に向けた準備（平成26年5月設置）



アカデミック・リンク・センター／附属図書館外観



1210あかりんアワー

《「考える学生」を創造する3つの機能》

目的：「考える学生の創造」



学習支援デスク

「学び」に導く刺激
あふれた場所

アクティブ・
ラーニング・スペース



アクティブ・ラーニング・スペース

学びの基盤としての
コンテンツ

コンテンツ・ラボ

人的サポート

ティーチング・ハブ

環境・エネルギーマネジメントシステム

✓大学として全国初のエネルギーマネジメントシステムISO50001の認定取得！

✓学生主体の環境・エネルギー統合型マネジメントシステム！

千葉大学では2013年に全国の大学で初めてエネルギーマネジメントの国際規格「ISO50001」を取得しました。すでに2004年から認証を維持している環境マネジメント国際規格「ISO14001」と合わせて、全国で最も進んだ環境・エネルギーマネジメントシステム（EMS、EnMS）を運用しています。特筆すべきは取り組みの主体が学生であること。「環境マネジメント実習」を単位化することにより「環境ISO学生委員会」正会員として、1年から3年の学生約200名が活動を行っています。

学生はさまざまな計画を立て、実行し、点検し、見直す「PDCAサイクル」を繰り返すことによって、より環境に配慮した活動を行うことを目指しています。

千葉大学の本取組は、

**「特筆」される
取組として評価！**

（平成25年度国立大学法人
評価委員会の評価において）



JMA 審査登録証

環境・エネルギーマネジメントシステムの効果

・環境の効果

千葉大学では、同規模の総合的な国立大学法人ではトップ水準のエネルギー効率を達成し、維持しています。水資源投入量は、EMSの本格運用開始前の2003年度と比較すると**2012年度は41%削減**されています。

・教育的効果

学生委員会の活動は、環境・エネルギーマネジメントを担う人材育成を目的として、**授業の一環として単位化**されています。単位を修得し、条件を満たすことで学内資格（千葉大学独自の資格）が認定されます。2004年の開講から2012年度までに、学長から245名もの学生が「千葉大学環境マネジメント実務士」として、2013年度には34名の学生が「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」として認定されました。

・経済的效果

光熱水費はEMS本格運用開始の2004年度から**9年間で年平均約1億円削減**されました。また、ISO50001の取得における取り組みによって、千葉大学全キャンパスにおいて、**合計5.49%の電気量の削減**と、およそ**5,680万円の経費削減**を見込めることとなりました。

・社会的効果

学生主体のEMS・EnMSの構築・運用が**社会的に高く評価**されています。また、報道機関にも取り上げられています。
[主な受賞歴] 第9回日本環境経営大賞 環境経営部門最優秀賞（環境経営パール大賞）／第15回環境報告書公共部門賞／環境goo大賞奨励賞／ワットセンス・アワード エコ・リーグ賞 長期活動部門
[最近の報道歴] 日本経済新聞「学内省エネで連携」（2013年6月25日付）／千葉日報「省エネ目指しイベント」（2013年6月25日付）／千葉日報「大学生が環境授業」（2013年7月2日付）



環境マネジメント実習 | 講義風景



実務士認定式（学長室にて）



「古本市」：学生・教職員の不要になった本を回収し、リユース（再利用）することでごみの削減を図るものです。



「緑のカーテン」（旧薬学部棟にて）：千葉大学で、緑豊かなキャンパスづくりと省エネを目的とし緑のカーテンの設置を進めています。

Ⅲ. 研究

ハドロン宇宙国際研究センター

- ✓世界で初めて高エネルギー宇宙ニュートリノの存在を示す実験的証拠となるニュートリノ事象を観測！
- ✓科学研究費助成事業 基盤研究（S）に採択！
（課題名：南極点複合ニュートリノ望遠鏡で探る深宇宙－高エネルギーニュートリノ天文学の始動）
- ✓物理学におけるブレークスルーオブジヤヤー2013（IOP：英国物理学会）受賞！

理学研究科附属ハドロン宇宙国際研究センターは、南極点直下で展開する国際共同実験アイスキューブ (IceCube) に参画して高エネルギーニュートリノ探索を主導しています。

これまでに知られていたエネルギーをはるかに上回るPeVニュートリノの存在を示唆する世界初の観測証拠を得て物理学分野で最も権威ある論文誌フィジカルレビューレターズに注目すべき論文を掲載しました。

さらに感度を改善した追加解析により高エネルギー宇宙ニュートリノの存在を明確に示すとともに、その量についても最初の手がかりを得、科学誌サイエンスに掲載され表紙を飾りました。



Ice Cubeの南極基地



光検出装置



南極に立つ吉田滋センター長

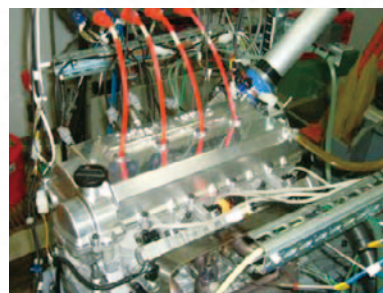
次世代モビリティパワーソース研究センター

大学院工学研究科附属次世代モビリティパワーソース研究センターは、次世代モビリティパワーソースの研究開発及び実用化の拠点として、産学官連携による世界に先駆けた高効率で低公害の自動車用パワートレインの研究開発及び実証を行い、製品化を推進することを目的として平成25年4月に設置されました。

多くの大学と自動車産業界の連携により、オールジャパン体制で基礎研究から実証研究まで、幅広く共同して研究する母体となることが期待されています。



竣工した次世代モビリティパワーソース研究センター



新燃焼方式のエンジン

IV. 社会連携

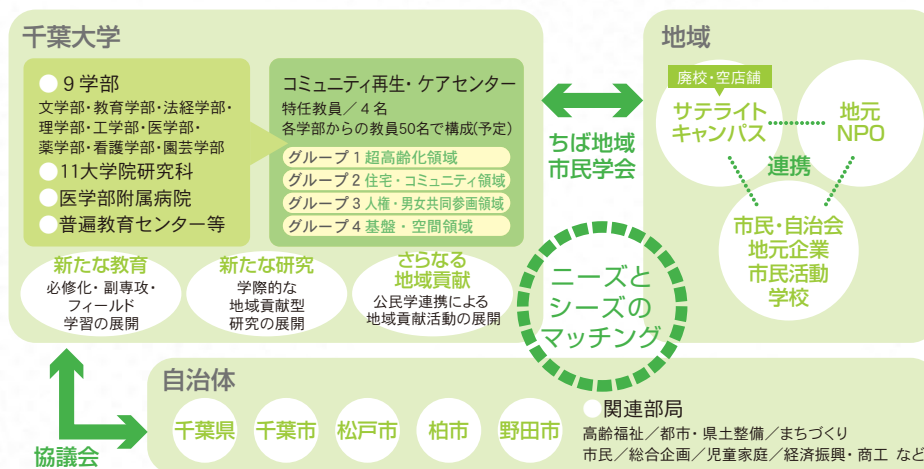
クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学

文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」に採択されました。

また、その取組みを行うために、平成25年9月に、コミュニティ再生・ケアセンターを設置しました。

本取組みは、地域課題が山積している大都市郊外の住宅地コミュニティにある大学として、自治体（千葉県、千葉市、松戸市、柏市、野田市）・NPOとの強い連携の下、地域のニーズと大学のシーズをマッチングさせ、その社会問題に総合的・包括的に取組み、地域に貢献する拠点づくりを担う人材を育成します。

クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学 概要



特徴的な取組み 1

千葉市の旧小学校を借り受け、千葉大学のサテライトキャンパスとして、教育・研究・社会貢献を進めます。



サテライトキャンパス美浜（旧高浜二小）

特徴的な取組み 2

教育・研究・地域貢献が一体となった学際的な取組みを学内公募によって進めます。

主な研究テーマ

- ・ 地域の中の認知活動支援
- ・ 認知症と子どもの関係
- ・ 生活課題解決型リフォームモデル
- ・ アートによる地域づくり
- ・ 教育施設の老朽化・再編研究
- ・ 小中学校のICT学習サポート
- ・ 在宅医療で薬剤師に求められる技能
- ・ 高齢者の対話促進開放型コミュニティ
- ・ 低未利用地の有効活用
- ・ DVの音声感情認識による抑止
- ・ 地域経済とコミュニティの活性化



第1回シンポジウム「大学と地域の共創まちづくり」



普遍教育科目：教養展開科目「地域をつくる」
地域再生学 第2回講義

V. 診療

医学部附属病院

◎ 超高齢社会に対応する総合診療医養成事業

「超高齢社会に対応する総合診療医養成事業」が文部科学省「平成25年度未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択され、超少子高齢化社会への対応の検討、在宅医療の促進に着手しました。

今後も超高齢化社会での様々な問題を解決できる総合診療医を、大学の医・薬・看が地域と一体となって養成する仕組み作りに挑戦していきます。



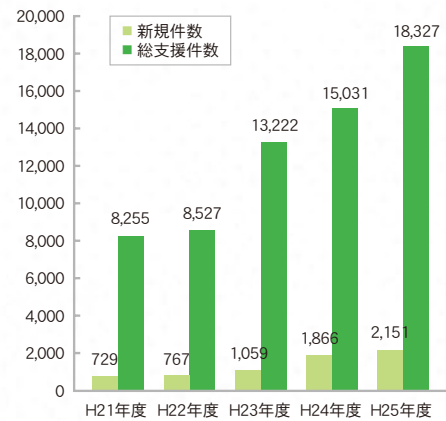
千葉総合診療フォーラム2014

◎ 地域連携強化

千葉大学病院では、千葉県の地域疾病管理を尊重して、患者さんの病態に最適な地域関係機関とともに質の高い療養生活が継続して送れるように支援をしています。

平成25年7月からは、千葉県が推進する「千葉県ITネット」（地域医療ネットワークシステム）を新たに導入し、県内医療機関の診療情報の共有を図りました。

また、本病院の情報システムに独自システムとして、県内医療機関の情報を取り込み、本病院から患者紹介を行う際の利便性を高めました。



地域医療連携部 支援件数

◎ 新しい外来診療棟の開院

千葉大学病院では、より高度な医療と、快適な受診環境を提供するため、従来の外来診療棟の南側に新しい外来診療棟（地上5階、地下1階建／延べ1万8,342平方メートル）を平成26年7月22日に開院しました。

新しい外来診療棟では、新しい設備やゆとりのある診療空間に加え、臓器別外来、高齢者医療センター、糖尿病コンプレクションセンターなど、診療科の枠を越えた新たな

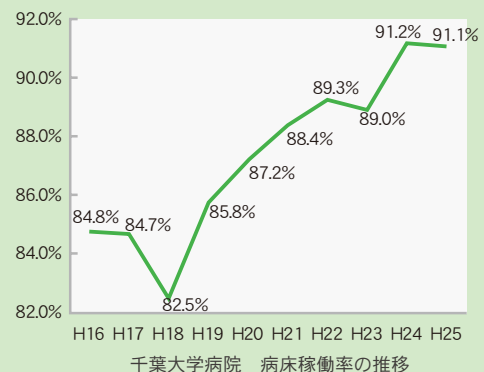


新しい外来診療棟のホスピタルストリート

診療体制で、患者さんのQOL（生活の質）に配慮した診療に取り組んでまいります。

H25国立大学附属病院 病床稼働率ランキング (UMINより)

順位	大学名	稼働率 (%)
1	千葉大学病院	91.1
2	広島大学病院	90.4
3	新潟大学病院	90.3
4	鳥取大学病院	89.4
5	信州大学病院	89.3
6	宮崎大学病院	89.2
7	山形大学病院	88.9
8	秋田大学病院	88.3
9	神戸大学病院	88.2
10	滋賀医科大学病院	87.8



千葉大学病院 病床稼働率の推移

Ⅵ. 大学機能強化

次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点形成のための 亥鼻キャンパス高機能化構想

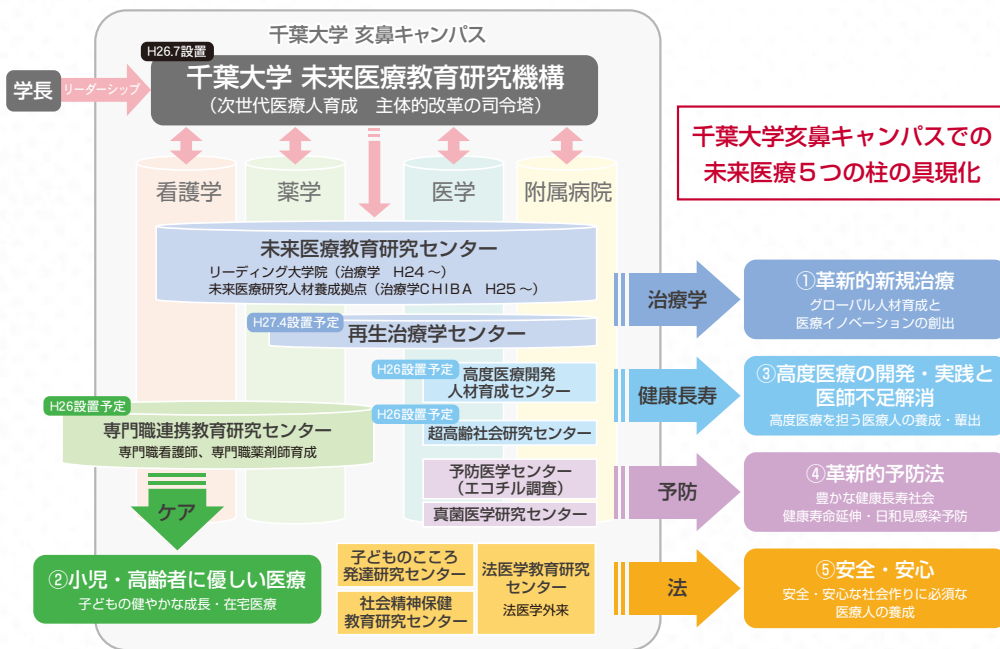
✓国立大学唯一の医療系3学部（医学・薬学・看護学）と大学病院の結集した亥鼻キャンパスの特性を生かした総合的医療系人材育成！

文部科学省「平成25年度国立大学改革強化推進補助金」に採択されました。

本取り組みは、国立大学唯一の医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集した亥鼻キャンパスにおいて、医療イノベーション創出とグローバル化に対応するための教育研究組織改革及びガバナンス改革を強力に加速し、次世代の多様なニーズに応える医療人育成機能強化を果たすとともに、全学に改革を展開していきます。

次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想

—豊かな健康長寿社会と安全・安心な社会の実現を支える医療人の総合的育成—



千葉大学亥鼻キャンパスでの
未来医療5つの柱の具現化



看護学部・看護学研究科



薬学部・薬学研究院



医学部・医学研究院



医学部附属病院



真菌医学研究センター

理事メッセージ



平成16年度の法人化以降、国立大学法人は、「国立大学法人会計基準」に基づき会計処理を行い、一般企業と同様に毎年、財務及び運営状況を明らかにするため財務諸表を作成しています。

今般、平成25事業年度の財務諸表が文部科学大臣の承認を得たことに伴い、広くステークホルダーの皆様に本学の活動状況を理解していただくため、財務情報を公表するとともに、教育・研究、学生支援及び社会連携等最新の活動状況についても分かりやすく紹介した、「Chiba University Financial Report 2014」を作成いたしました。

年々厳しさを増す国の財政状況の影響により国から交付される運営費交付金は毎年削減され、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアは法人化初年度に比べ13%減少しています。一方、附属病院収益、外部資金等のシェアを増加させ収益構造を大きく改善させてきました。

本学では引き続きスーパーグローバル大学創成支援事業や科学研究費助成事業及びSEEDS基金等の外部資金の獲得を積極的に推進するなど、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、「TOKUHISA PLAN 2014」の実現に向け、日々財政基盤の強化に向けた取り組みを実施してまいります。

本学を支えてくださる皆様や、応援して下さる皆様におかれましては、このような状況をご理解下さいますとともに、今後とも引き続き、さらなるご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

理事（総務担当・事務局長）

猿渡政範

平成25事業年度決算のポイント

I. 貸借対照表の概要

- 西千葉キャンパスの事務局本部棟、広域避難場所（サッカー場）や、亥鼻キャンパスの立体駐車場、医学部記念講堂、総合研究棟（看護系）など建物等の工事・改修を行った一方で、既存の建物・備品等の老朽化に伴う減価償却が進行しています。（※1）
- 外来診療棟（病院）、総合研究棟（工学系、学際型研究拠点）等の新営・改修工事に伴う前金の支払い（※2）及び未払金（※4）が増加しています。
 - ・ 外来診療棟新営工事（病院） 平成26年5月竣工
 - ・ 総合研究棟（工学系）新営工事 平成26年10月竣工
 - ・ 総合研究棟（学際型研究拠点）改修工事 平成27年3月竣工予定
- 外来診療棟新営工事に伴う長期借入金が増加しています。（※3）

（単位：億円）

資産の部		負債の部	
土地	1,305 (1,305)	資産見返負債	182 (140)
建物等 ^{※1}	484 (488)	借入金 ^{※3}	210 (175)
備品 ^{※1}	131 (132)	長期未払金	28 (50)
図書	54 (54)	寄附金債務	33 (35)
建設仮勘定 ^{※2}	80 (10)	未払金 ^{※4}	164 (105)
投資有価証券	16 (13)	その他	46 (43)
その他	6 (5)	負債合計	664 (548)
現金及び預金	30 (26)	純資産の部	
未収入金	70 (57)	資本金	1,509 (1,509)
有価証券	165 (129)	資本剰余金	85 (82)
棚卸資産	5 (4)	利益剰余金	84 (75)
その他	3 (1)	当期末処分利益	5 (10)
		純資産合計	1,684 (1,675)
資産合計	2,347 (2,223)	負債・純資産合計	2,347 (2,223)

（ ）は平成24事業年度



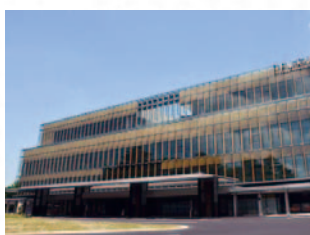
事務局本部棟



広域避難場所（サッカー場）



医学部記念講堂

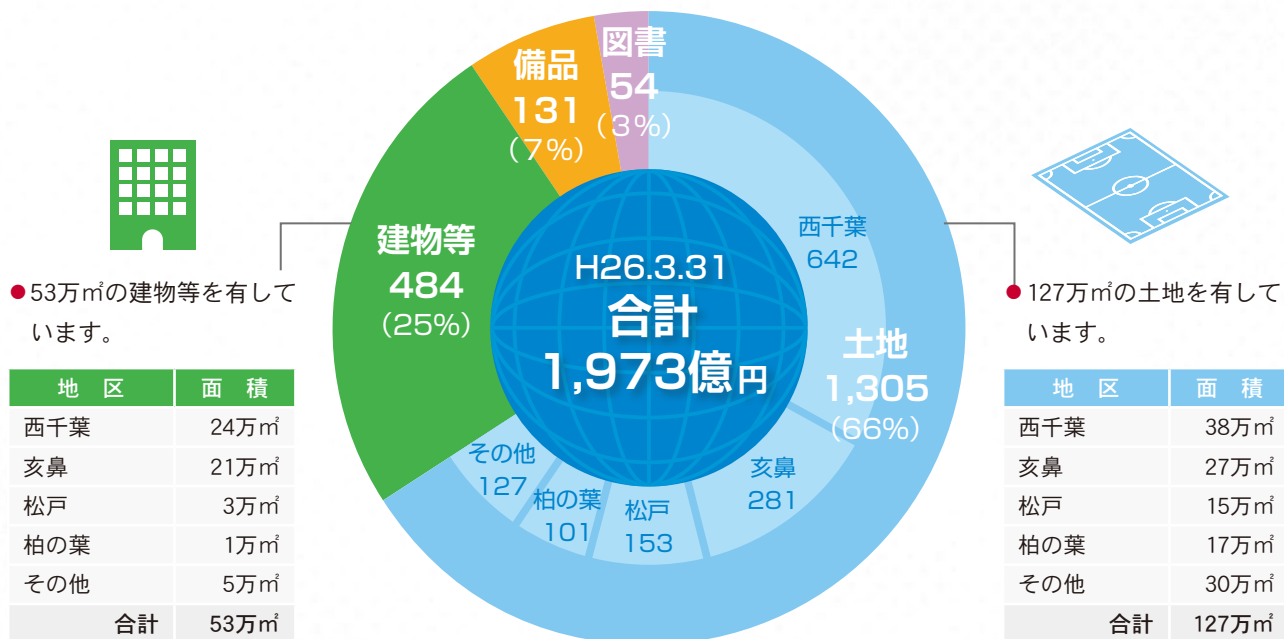


外来診療棟（平成26年7月開院）

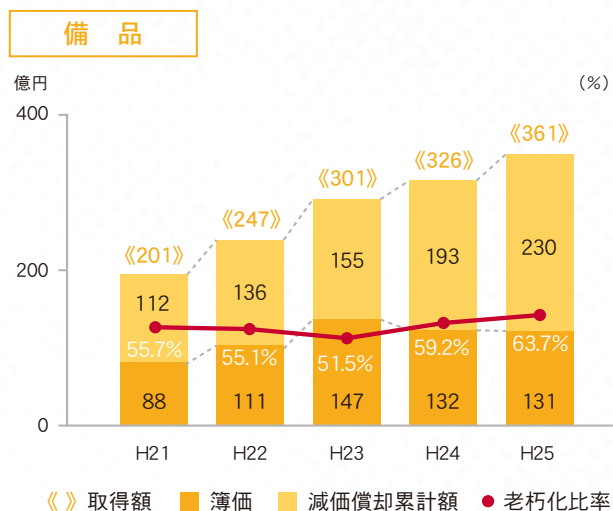
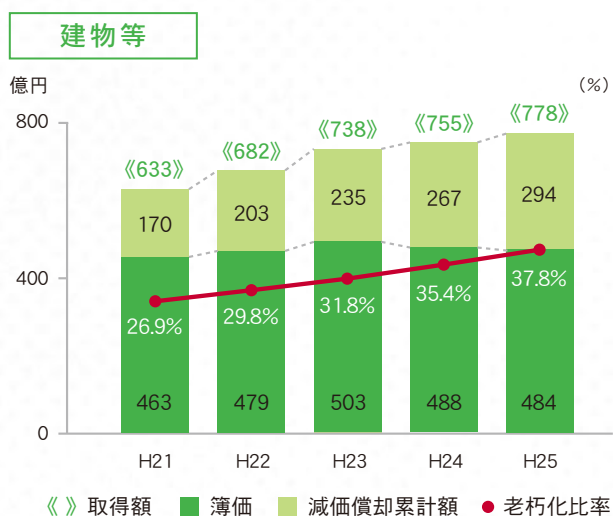


工学系総合研究棟2

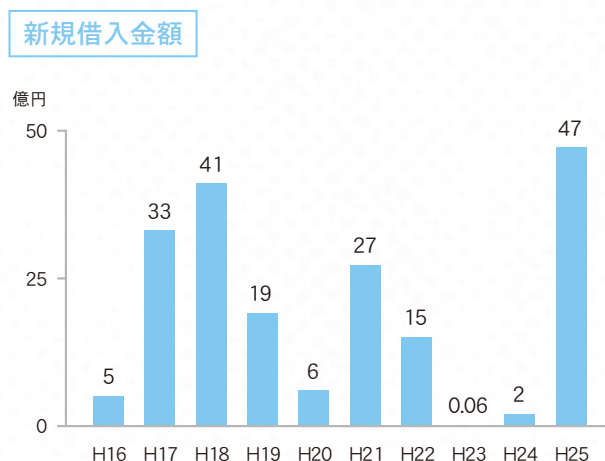
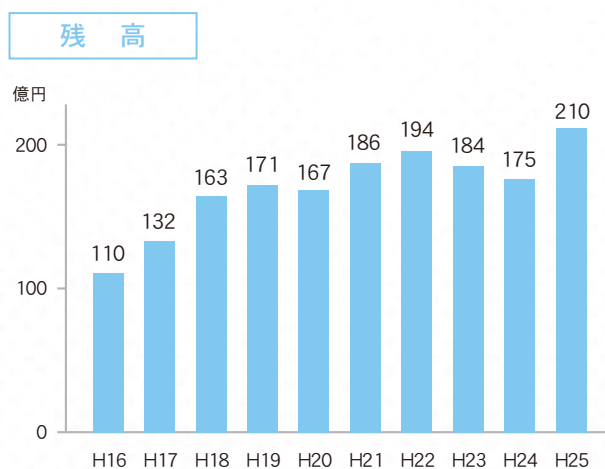
主要な有形固定資産の内訳



■ 施設等取得額・老朽化比率の年度別推移



■ 借入金の年度別推移



Ⅱ. 損益計算書の概要

- 診療経費は、手術件数の増に伴う手術材料費や、高額医薬品費、業務委託費等の増に伴い増加しています。(※1)
- 人件費は、附属病院における看護師、コ・メディカル、医員等の増員等の影響で増えています。(※2)
- 運営費交付金交付額は昨年度より増えておりますが、復興関連事業などの次年度への繰越し及び固定資産取得の増加の影響により、運営費交付金収益は減となりました。(※3)
- 附属病院収益は、「平成25年度経営改善行動計画」に基づく増収対策（平均在院日数の短縮、高い病床稼働率の維持、手術件数の増など）の影響で過去最高となりました。(※4)

(単位：億円)

経常費用		経常収益	
教育研究経費等	108 (100)	運営費交付金収益 ^{※3}	157 (162)
診療経費 ^{※1}	195 (186)	学生納付金収益	83 (85)
人件費 ^{※2}	304 (301)	附属病院収益 ^{※4}	299 (288)
一般管理費	13 (12)	外部資金	44 (39)
その他	4 (4)	機関補助金	22 (16)
		その他	25 (23)
経常費用合計	623 (603)	経常収益合計	630 (614)
臨時損失	9 (2)	臨時利益	6.5 (0.5)
		目的積立金取崩等	0.5 (0.5)
当期総利益	5 (10)		
計	637 (615)	計	637 (615)

() は平成24事業年度

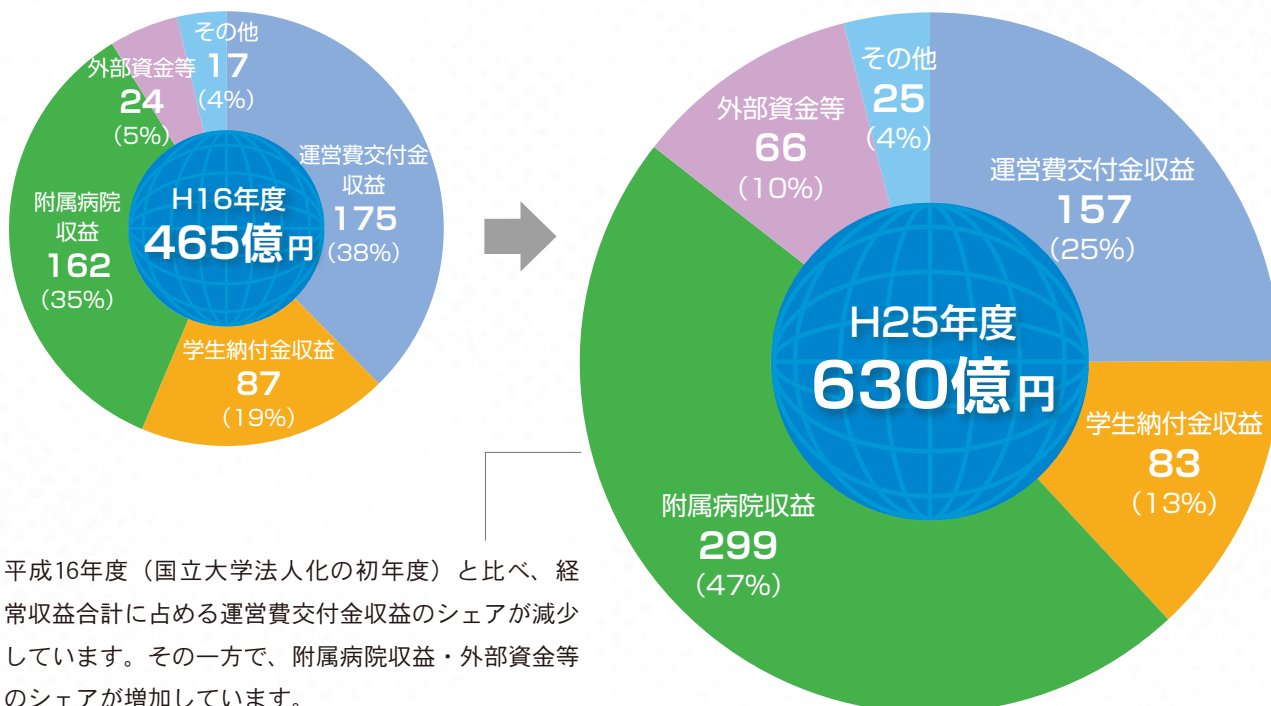
◆ 現金の裏付けのない帳簿上の利益：5億円

資産の取得に充てた病院収入と減価償却費の差から生じる利益など、運営努力の如何に関わらず生じる現金の裏付けのない帳簿上の利益は、積立金とする予定です。(P.27参照)

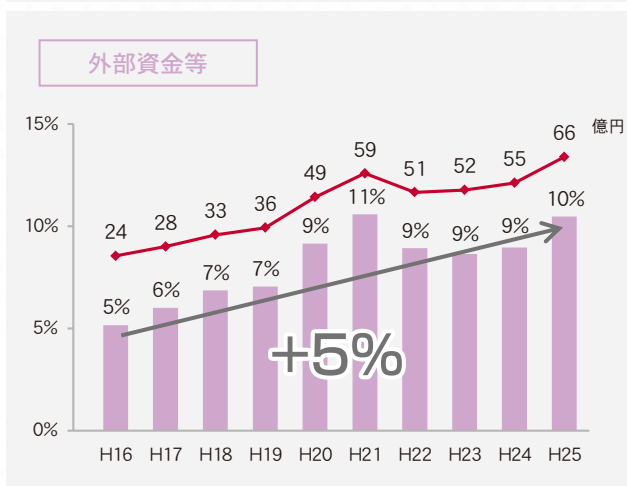
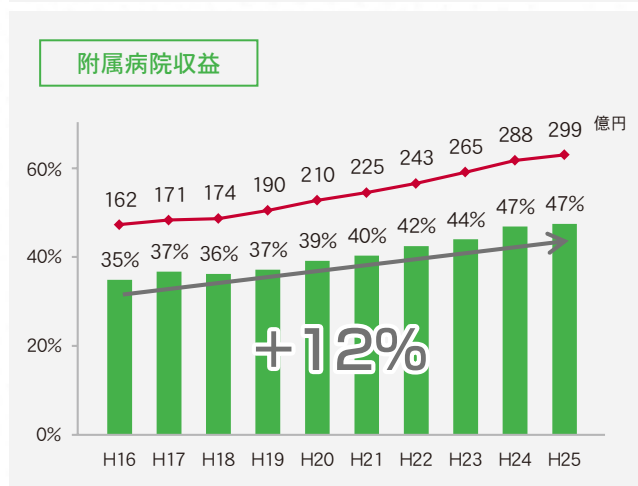
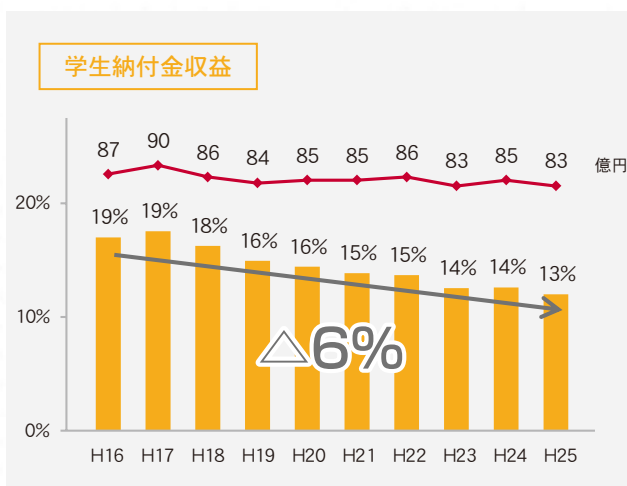
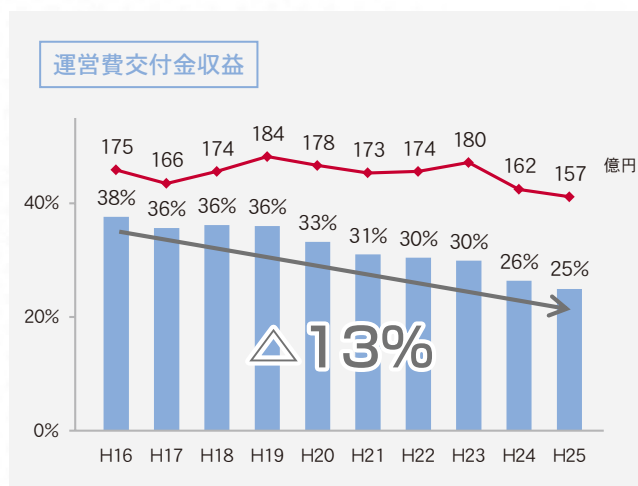
◆ 運営努力により生じた利益：なし

実際に本学の運営に使用できる現金の裏付けのある利益は発生しておりません。(P.27参照)

主要な経常収益（シェア）の推移



平成16年度（国立大学法人化の初年度）と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。



外部資金等の内訳は、受託等・寄附金・補助金などである。

Ⅲ. 財務指標

財務指標とは

財務指標とは財政状態や運営状況を財務諸表の計数を用いて計算し数値化したものです。

本学では、今後の大学運営の改善や取組の参考とするために、平成25事業年度における大規模総合大学（Aグループ）※などと比較分析を行っています。

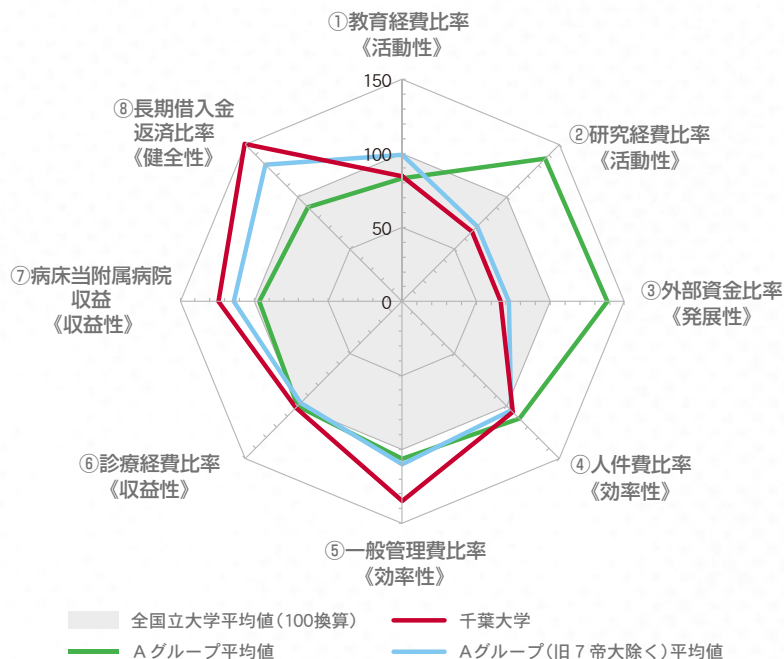
分析結果と今後の課題

- 附属病院においては、平均在院日数の短縮、高い病床稼働率の維持、手術件数の増などの効果で、附属病院収益が過去最高となった結果、病床当附属病院収益（収益性）が高くなっています。同規模大学平均と比べても高い数字であるため、引き続き附属病院収益の増加に努めてまいります。
- 外部資金比率については、共同研究、受託研究などの受入額の増加に伴う受託研究等収益の増加ならびに寄附金収益が増加したことで、前年度より比率が上昇しておりますが、同規模大学平均と比べると劣っております。運営費交付金が年々減少するなか、外部資金の獲得は大学運営における基盤的経費として重要であるため、引き続き外部資金獲得に努めてまいります。
- 一般管理費比率は同規模大学平均と比べても低く良い傾向であるため、引き続き経費削減に努めてまいります。

財務指標レーダーチャート

本学と、大規模総合大学（Aグループ）等をレーダーチャートで比較し、財務状況を分析しています。

比率が低い方が望ましいもの（長期借入金返済比率（対附属病院収入）、人件費比率、一般管理費比率、診療経費比率）については逆数を用いており、グラフ上はすべて外側に行くほど財務上の評価が高くなるように表示しています。



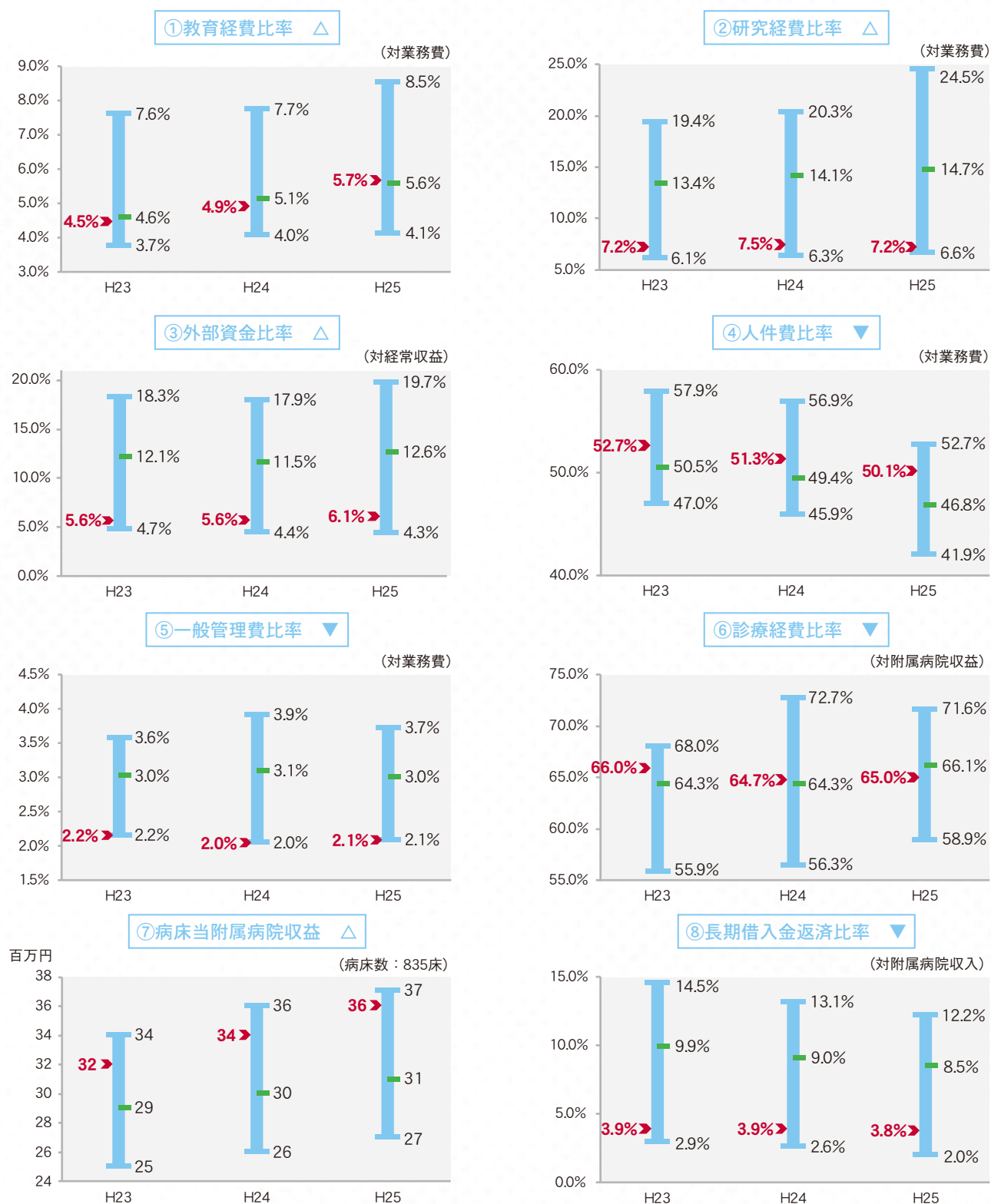
※大規模総合大学（Aグループ）とは、学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の13の国立大学を指します。（北海道、東北、筑波、千葉、東京、新潟、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、九州）

財務指標から見た大規模総合大学(Aグループ)との比較分析

▶ は千葉大学を、■ はAグループ平均値を示します。

平均値より△は多い(高い)方、▼は少ない(低い)方が望ましく、最大値・最小値は、Aグループにおける最大値・最小値を示します。

各指標の算出は、21~22ページに掲載の財務諸表等の数値を基礎とし、一部については事業報告書等の数値に基づいています。



IV. 財務諸表等の計数推移

貸借対照表


(単位：百万円)

区 分	H16	H21	H22	H23	H24	H25	差引 H25-H24
資産の部							
固定資産	178,418	194,110	198,012	202,815	200,626	207,470	6,845
有形固定資産	178,096	192,870	196,869	201,420	198,968	205,452	6,484
土地	130,463	130,463	130,463	130,463	130,452	130,452	0
土地	130,463	130,463	130,463	130,463	130,463	130,463	0
減損損失累計額	—	—	—	—	△ 11	△ 11	—
建物	36,051	45,004	45,755	47,912	46,524	45,907	△ 617
建物	39,111	60,942	64,789	69,989	71,574	73,503	1,929
減価償却累計額	△ 3,059	△ 15,937	△ 19,033	△ 22,077	△ 25,050	△ 27,596	△ 2,546
構築物	1,531	1,290	2,134	2,368	2,273	2,503	230
構築物	1,830	2,376	3,363	3,801	3,904	4,341	436
減価償却累計額	△ 299	△ 1,086	△ 1,228	△ 1,433	△ 1,631	△ 1,837	△ 207
工具器具備品	3,867	8,830	11,133	14,653	13,219	13,073	△ 145
工具器具備品	6,263	20,071	24,740	30,135	32,556	36,106	3,550
減価償却累計額	△ 2,396	△ 11,241	△ 13,607	△ 15,481	△ 19,337	△ 23,033	△ 3,696
図書	5,397	5,382	5,367	5,364	5,358	5,367	9
建設仮勘定	649	1,758	1,873	518	994	7,996	7,002
その他の有形固定資産	137	143	145	142	147	154	7
無形固定資産	139	216	231	250	266	331	65
投資その他の資産	183	1,024	911	1,145	1,392	1,688	296
流動資産	11,275	20,420	20,035	19,420	21,683	27,235	5,552
現金及び預金	8,036	9,025	4,701	2,793	2,595	2,980	386
未収学生納付金収入	81	97	87	102	84	80	△ 4
未収附属病院収入	2,726	3,963	4,196	5,056	5,268	5,244	△ 23
未収附属病院収入	3,004	4,051	4,295	5,127	5,343	5,338	△ 5
徴収不能引当金	△ 278	△ 88	△ 99	△ 70	△ 75	△ 94	△ 18
その他の未収入金	24	214	1,849	226	337	1,680	1,342
その他の流動資産	408	7,122	9,202	11,242	13,400	17,250	3,851
資産合計	189,692	214,531	218,046	222,235	222,309	234,705	12,396
負債の部							
固定負債	24,850	33,152	37,933	38,623	36,252	41,861	5,609
資産見返負債	8,033	12,637	14,998	13,950	13,997	18,204	4,207
長期寄附金債務	182	184	187	191	15	23	9
財務・経営C債務負担金	9,436	4,926	4,257	3,660	3,097	2,571	△ 527
長期借入金	7,196	12,921	14,117	13,606	13,274	17,307	4,033
引当金	3	136	168	214	255	339	84
退職給付引当金	3	136	168	214	255	270	15
その他引当金	—	—	—	—	—	68	68
その他の固定負債	—	2,348	4,207	7,000	5,613	3,417	△ 2,196
流動負債	13,511	16,995	16,300	15,990	18,536	24,493	5,957
運営費交付金債務	238	—	174	36	498	1,198	700
寄附金債務	1,992	2,968	3,089	3,185	3,448	3,279	△ 169
一年以内返済予定財務・経営C債務負担金	1,053	684	669	596	563	527	△ 37
一年以内返済予定長期借入金	3,349	86	336	517	574	645	71
未払金	5,167	11,256	9,792	9,200	10,391	16,276	5,884
その他の流動負債	1,712	2,001	2,240	2,455	3,061	2,568	△ 493
負債合計	38,362	50,146	54,234	54,613	54,788	66,354	11,567
純資産の部							
資本金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	—
政府出資金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	—
資本剰余金	△ 609	7,016	6,049	8,925	8,155	8,545	390
利益剰余金	1,033	6,461	6,857	7,791	8,459	8,899	440
純資産合計	151,331	164,384	163,813	167,622	167,521	168,351	830
負債純資産合計	189,692	214,531	218,046	222,235	222,309	234,705	12,396

 損益計算書


(単位：百万円)

区 分	H16	H21	H22	H23	H24	H25	差引 H25-H24
経常費用 (A)	45,892	54,174	54,693	58,782	60,327	62,260	1,933
業務費	44,157	52,382	53,083	57,153	58,756	60,644	1,887
教育経費	1,636	2,395	2,148	2,553	2,884	3,435	551
研究経費	3,093	3,678	3,676	4,119	4,380	4,368	△ 11
診療経費	11,373	14,483	15,801	17,500	18,627	19,451	824
教育研究支援経費	503	1,129	892	899	906	979	74
受託研究(事業)費	1,140	1,922	1,944	1,961	1,826	2,021	195
人件費	26,413	28,774	28,623	30,121	30,133	30,389	256
一般管理費	1,345	1,385	1,207	1,233	1,196	1,264	68
財務費用	390	404	399	394	367	346	△ 21
雑損	—	3	3	3	7	7	△ 1
経常収益 (B)	46,524	55,778	57,236	60,244	61,409	62,953	1,543
運営費交付金収益	17,490	17,311	17,434	17,957	16,244	15,748	△ 496
学生納付金収益	8,741	8,514	8,628	8,323	8,542	8,267	△ 276
附属病院収益	16,159	22,537	24,263	26,529	28,772	29,904	1,131
寄附金収益	1,094	1,058	1,023	1,138	1,287	1,414	127
その他の収益	3,040	6,358	5,889	6,297	6,564	7,621	1,057
経常利益 (B-A)	632	1,604	2,543	1,462	1,083	693	△ 390
臨時損益 (C)	401	1,529	△ 480	△ 166	△ 123	△ 239	△ 116
前中期目標期間繰越積立金取崩額(D)	—	—	15	65	7	—	△ 7
目的積立金取崩額 (E)	—	560	—	—	39	53	13
当期総利益 (B-A+C+D+E)	1,033	3,694	2,078	1,361	1,006	507	△ 499

 利益の処分に関する書類

(単位：百万円)

区 分	H16	H21	H22	H23	H24	H25	差引 H25-H24
当期末処分利益	1,033	3,694	2,078	1,361	1,006	507	△ 499
当期総利益	1,033	3,694	2,078	1,361	1,006	507	△ 499
利益処分数額	1,033	3,694	2,078	1,361	1,006	507	△ 499
積立金	—	3,694	26	1,361	763	507	△ 256
目的積立金	1,033	—	2,052	—	243	—	△ 243

 (参考) 決算報告書

(単位：百万円)

区 分	H16	H21	H22	H23	H24	H25	差引 H25-H24
収入	46,434	63,663	61,734	62,605	62,806	73,704	10,897
運営費交付金収入	18,207	18,129	17,853	18,447	17,104	18,243	1,139
補助金等収入	—	3,962	3,184	1,490	2,011	3,442	1,431
学生納付金収入	8,082	8,386	8,514	8,323	8,262	7,263	△ 999
附属病院収入	16,159	22,018	23,820	25,584	28,434	29,853	1,419
その他収入	3,986	11,168	8,363	8,761	6,996	14,903	7,907
支出	46,183	61,986	59,107	62,173	61,563	73,250	11,687
教育研究経費	20,484	20,294	22,757	24,321	23,027	23,074	47
診療経費	14,598	21,347	24,447	27,418	29,480	31,187	1,707
一般管理費	5,806	6,167	—	—	—	—	—
その他支出	5,295	14,178	11,903	10,434	9,055	18,989	9,933
収入-支出	251	1,677	2,627	432	1,244	454	△ 790

決算報告書は、財務諸表とは別途に、現金主義を基礎とする国の会計に準じて作成する書類である。

その他の財務情報

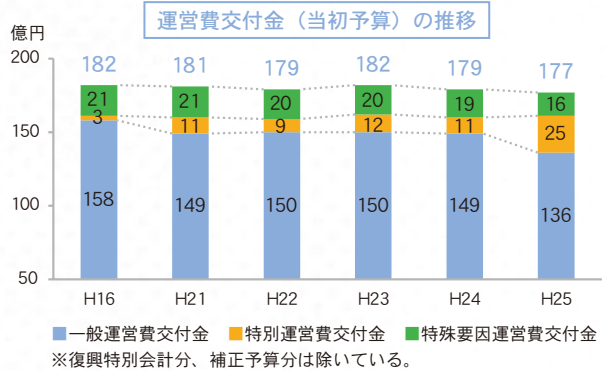
I. 運営費交付金、自己収入及び外部資金等の受入金額の推移

運営費交付金

国立大学法人等には、大学の業務運営の財源として運営費交付金が措置されています。運営費交付金は、一般運営費交付金、特別運営費交付金、特殊要因運営費交付金の3つに区分され、平成25年度の交付額は約177億円となっており、大学運営に不可欠な経費となっています。

しかし、一般運営費交付金については、大学改革促進係数等（平成21年度までは効率化係数、平成22年度は臨時的減額、平成23年度からは大学改革促進係数）が課せられ、毎年度減額されています。

本学では、人件費や物件費などの経費抑制に努めるとともに、自己収入・外部資金等収入を確保するなど、一層の効率的な経営を目指しています。



- 平成25年度一般運営費交付金は、給与改定臨時特例法に基づく国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額が反映され、約13億円減少しました。
- 一方で、平成25年度特別運営費交付金は、復興関連事業（建物耐震改修経費）が措置されたことによって、約14億円増加しました。

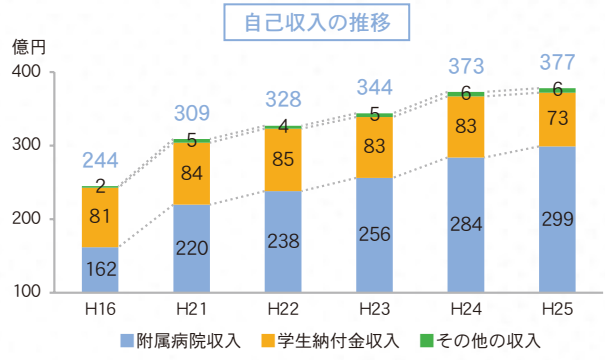
※運営費交付金の種別

一般運営費交付金	国立大学の教育研究を支える基盤的な経費です。主として本学の教職員の人件費などの基幹的な経費に充てられます。
特別運営費交付金	国立大学の個性や特色に応じた意欲的な取組や、新たな政策課題への対応などを支援する経費です。本学が実施する様々な教育研究プロジェクトや、基盤的な設備の整備などに充てられます。
特殊要因運営費交付金	国立大学の運営上生じる年度ごとの特殊な事柄への対応を支援する経費です。本学の教職員の退職手当や建物新営・改修等に伴う移転・設備整備などに充てられます。

※大学改革促進係数等影響額 (単位：百万円)

年度	H16	H21	H22	H23	H24	H25
影響額	-	▲ 158	▲ 186	▲ 173	▲ 173	▲ 155

自己収入



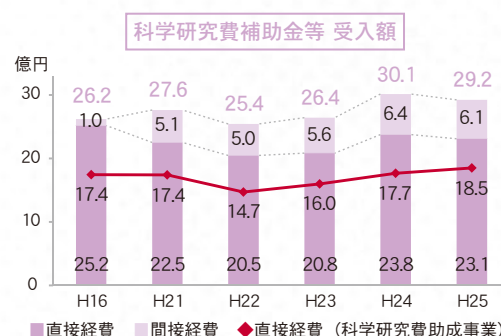
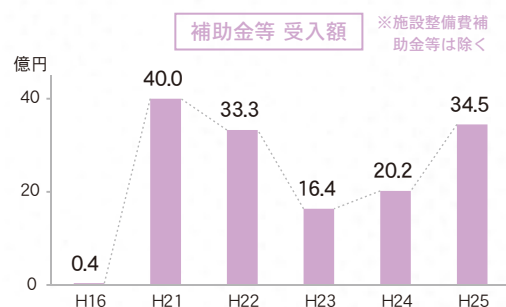
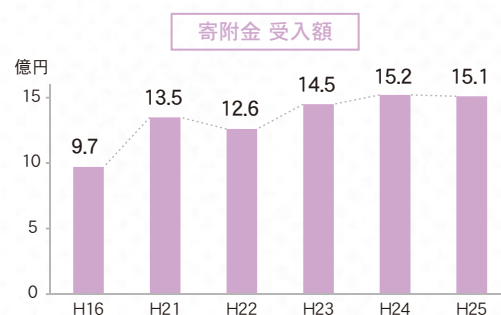
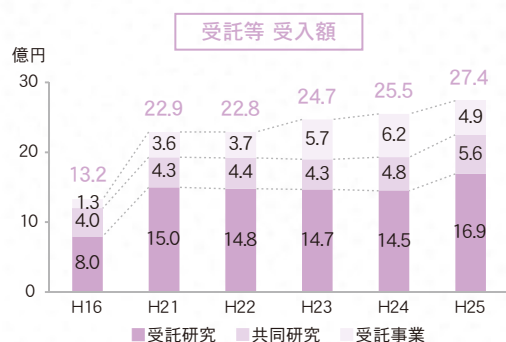
- 本学の主な自己収入は「附属病院収入」、授業料・入学金・検定料の「学生納付金収入」です。
- 平成25年度附属病院収入は、「平成25年度経営改善行動計画」に基づく増収対策等により、約14億円増加しました。
- 学生納付金収入については、これまで適正な学生数の確保に努め、入学金及び授業料免除実績額増加による収入減の影響はあるものの安定的な収入を確保してきましたが、平成25年度については、平成26年度入学者に係る授業料の前納制廃止等に伴い、約10億円減少しました。
- その他の収入については、主に財産貸付料収入やTLO事業収入、講習料収入などにより構成されています。

外部資金等

運営費交付金が年々減少するなか、研究環境整備等を維持充実していくためにも外部資金の重要性は増しております。また、これらの外部資金獲得によって生じる間接経費は、本学の収入として経理され、大学運営における基盤的経費として不可欠の経費となっております。

本学では、学術推進企画室及び研究支援企画室を中心に、科学研究費補助金等をはじめ大型の競争的外部資金獲得のための取組みを積極的に推進しています。

区 分		説 明
受託等	受託研究	・大学の研究者が企業等から委託を受けて研究 「木質バイオマスエネルギーを活用したモデル地域づくり推進事業」 「エピゲノム変異誘導に対する調整因子・抵抗因子の同定」等
	共同研究	・大学の研究者と企業等とが共同で取り組む研究 「看工連携高齢者支援学共同研究講座」、「動脈硬化関連疾患のマーカー探索とその応用」等
	受託事業	・大学の研究者が国・地方公共団体等から委託を受けて研究 「健康植物科学コンソーシアムによる若手研究者育成プログラム」 「エコチル調査千葉ユニットセンター委託業務」等
寄附金	寄附金	・個々の教員が企業等から受ける教育研究などのための寄附金 ・千葉大学SEEDS基金
補助金等	施設整備費補助金等	・施設整備費補助金、国立大学財務・経営センター施設費交付金 「老化対策等基盤整備事業」、「(医病) 外来診療棟」、「(松戸) 総合研究棟改修」等
	上記以外の補助金	・国立大学改革強化推進補助金、大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等 「国立大学強化推進事業(スーパー予防医科学)」、「地(知)の拠点整備事業(千葉大学COC事業)」等
科学研究費補助金等	直接経費 (研究者個人へ交付)	・科学研究費補助金等(科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費補助金、先端研究助成基金助成金等)のうち研究に必要な直接経費
	間接経費	・科学研究費補助金等による研究の実施に伴い、研究機関において必要となる管理等に係る経費(研究に必要な直接経費に上積み(直接経費の30%)して措置)



II. 補助金による主要な教育研究プロジェクト

(単位：百万円)

事業名	本学のプログラム名	部 局	年度	概 要
			金額	
国立大学改革強化推進事業				
※7P参照	真の疾患予防を目指したスーパー 予防医学に関する3大学(千葉・ 金沢・長崎)革新予防医学共同 大学院の設置	医学研究院	24～29	得意分野を活かして複数の大学が連携協力し、国内 最高水準の研究者をそろえた予防医学分野の大学院 を共同で設置。今後世界的教育研究拠点の形成を目 指す。
			371	
※13P参照	次世代対応型医療人育成と「治 療学」拠点創成のための亥鼻キャン パス高機能化構想	未来医療教育研究機構	25～30	国立大学唯一の医療系3学部(医学・薬学・看護学) と附属病院が結集した亥鼻キャンパスにおいて、医 療イノベーション創出とグローバル化に対応するた めの教育研究組織改革及びガバナンス改革を強力に 加速し、次世代の多様なニーズに応える医療人育成 機能強化を果たすとともに、全学に改革を展開する。
			710	
グローバル人材育成推進事業				
※6P参照	skipwiseプログラム	全学	24～28	国際体験など4つのアクション・プランからなる 「skipwiseプログラム」を全学で実施し、イングリッ シュコミュニケーションや日本文化・異文化に関す る高度な教養知識を教授する「国際日本学」などを ととして「知識準備 (Knowledge Reserves) 高流 動 (High Mobility) 型」のグローバル人材を育成する。
			191	
大学の世界展開力強化事業				
※6P参照	植物環境デザインプログラム [P-SQUARE]	園芸学研究科	22～26	都市環境において多面的な「植物による環境への貢 献」を促すことができる技術に関する国際的な人材 の育成を日本企業、中韓を始めとしたアジアの大学 コンソーシアムとの連携により推進する。
			78	
"	大陸間デザイン教育プログラム [CODE]	工学研究科	23～27	米・欧・日の異なるデザイン教育プログラムを有する 大学が協働。サービスやコンテンツのデザイン領域 において将来活躍が期待できる人材を世界中からリク ルト。世界に通用するグローバルなデザイナーとして 我が国の将来の産業を創成できる人材を育成する。
			56	
"	ツイン型学生派遣プログラム [TWINCLE]	教育学研究科	24～28	教育学研究科と他研究科の学生がペアを組んで ASEAN諸国に赴き、現地の小中高校で先生となっ て、日本語・日本文化や千葉大学が世界に誇る先端 研究をテーマにした授業・実験を実施する。
			47	
博士課程教育リーディングプログラム				
※7P参照	免疫システム調節治療学推進 リーダー養成プログラム	医学薬学府	24～30	難治性の免疫関連疾患(アレルギー、自己免疫疾患、 癌、心血管疾患など)に特化した「治療学」の推進 リーダーを養成するプログラムを、医学と薬学が融 合した大学院医学薬学府博士課程に組織し、領域横 断教育と産学官連携によりグローバル社会で活躍す る実践的なリーダーを育成する。
			268	
"	災害看護グローバルリーダー養成 プログラム	看護学研究科	24～30	千葉大学大学院、東京医科歯科大学大学院、高知県 立大学大学院、兵庫県立大学大学院、日本赤十字看 護大学大学院の5大学院が共同教育課程である共同 災害看護学専攻を設置、人間の安全保障を共通理念 として、各大学院が蓄積してきた資源を共有し、日本 や世界で求められている災害看護に関する多くの課題 に的確に対応・解決し、学際的・国際的指導力を発揮 し、人々の健康社会構築と安全・安心・自立に寄与す る「災害看護グローバルリーダー」の育成に取り組む。
			51	
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン				
	国際協力型がん臨床指導者養成 拠点	医学薬学府	24～28	グローバル化が急速に進むがん医療において、10～ 20年後の日本のがん医療の中心で活躍する国際感覚 に富んだがん専門医療人、指導者を育成する。
			36	

事業名	本学のプログラム	名部局	年度	概要
			金額	
大学間連携共同教育推進事業				
	実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム	薬学部	24～28 39	先端医療に貢献する千葉大学薬学部と地域医療に貢献する城西国際大学薬学部、災害医療に貢献する千葉科学大学薬学部がそれぞれの特徴を生かし、これまで組織的な取組みが行われて来なかった社会薬学に貢献する薬剤師を養成する連携教育を実施する。
テニュアトラック普及・定着事業				
	テニュアトラック普及・定着事業	全学	23～29 107	若手研究者が自立して研究することができる環境を整備するとともに、テニュアトラック制という公正で透明性の高い人事制度を構築し、研究リーダーとなる教員・研究者へと育成するため、テニュアトラック教員の研究費等を支援する。
ナショナルバイオリソースプロジェクト				
	病原微生物の収集・保存・提供体制整備事業	真菌医学研究センター	24～28 9	ライフサイエンス研究の基礎・基盤となる重要な生物種等であって、我が国独自の優れたバイオリソースとなる可能性を有する生物種等について収集・保存・提供を行う拠点を整備する。
創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業				
	創薬ターゲットとして重要なヒト膜タンパク質の生産及び結晶化支援基盤	理学研究科	24～28 4	高発現変異ヒト膜タンパク質の生産技術の支援と高度化する。
アジア研究教育拠点事業				
	アジアにおける最先端有機化学の新展開	薬学研究院	22～26 10	我が国の先端的又は国際的に重要と認められる有機化学研究課題について、我が国とアジア諸国の研究教育拠点機関を繋ぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野における世界的水準の研究教育拠点を構築。次世代の中核を担う若手研究者を養成する。
革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業（厚生労働省）				
	革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業	医学研究院	24～29 41	医薬品医療機器総合機構（PMDA）・国立医薬品食品衛生研究所（NIHS）との連携・人材交流を行い、革新的医薬品・医療機器・再生医療製品の安全性と有効性の評価方法の確立に資する研究を実施する。
未来医療研究人材養成拠点形成事業				
	未来医療を担う治療学CHIBA人材養成	医学研究院	25～29 113	「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、先見性と柔軟性、幅広い視点を有し、将来の医療イノベーションを担う人材を輩出することを目的とする。
※12P参照	超高齢社会に対応する総合診療医養成事業～地域と大学でロールモデルを継続的に育てる仕組みを作る～	附属病院	25～29 89	超高齢化社会での様々な問題を解決できる総合診療医を、大学の医・薬・看が地域と一体となって養成する卒前・卒後の教育事業であり、さらに在宅医療に関心を持つ医師及び実務者に対するプログラムとしてインテンシブコースも開設している。
地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）				
※11P参照	クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学	全学	25～29 47	地域の課題に教育・研究・地域貢献の分野で総合的に取り組むとともに、地域社会の中で貢献し活躍する人材を育成する。
大学教育研究基盤強化促進費				
※10P参照	工学エネルギー分野における内燃機関の国際的研究力の強化、同分野における日本型技術の革新	工学研究科	25 125	次世代モビリティパワーソースの研究開発及び実用化の拠点として産学官連携による世界に先駆けた高効率で低公害の自動車用パワートレインの研究開発及び実証を行い、製品化を推進する。

※金額は平成25年度交付決定額

（終了年度は見込）

国立大学法人会計の仕組み

I. 国立大学法人と民間企業の違い

国立大学法人は、公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず、独立採算性を前提としない等の独立行政法人の特性に加え、主たる業務内容が教育・研究・診療である等の特性を持っています。そのため、通常の業務運営を行った場合には、基本的には利益は生じず、損益が均衡する仕組みとなっています。（ただし、病院収入の取扱などについては、利益の獲得という面が一定程度考慮される仕組みとなっています）。

また、財政状態及び運営状況を情報開示するため、複式簿記・発生主義により財務諸表による報告が義務づけられています。

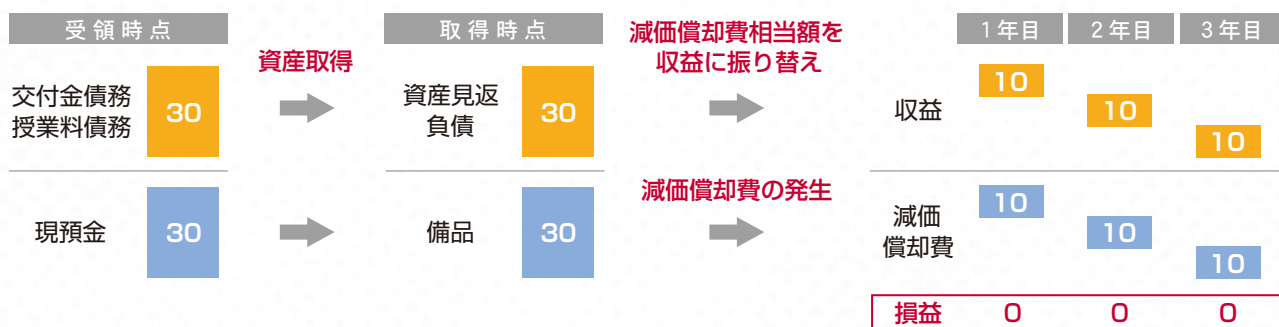
区分	活動の目的	利益の獲得
民間企業	・ステークホルダーの利益最大化 ・企業価値最大化	・目的とする
国立大学	・公的性格を有する教育研究診療の実施	・目的としない

II. 国立大学法人会計特有の仕組み（損益均衡）

運営費交付金や授業料を受領したときは、債務として負債に計上し、行うべき業務を実施すると、その相当額を収益化の基準に従って収益化する仕組みとなっています。

また、一般的に固定資産を運営費交付金などで取得した場合、取得原価相当額を資産見返負債として計上することで、収益計上を一旦留保します。その後、留保された金額から減価償却費相当額を毎年収益に振り替えていきます。

このように、国立大学法人は、通常の業務を行えば損益均衡するように制度設計されています。



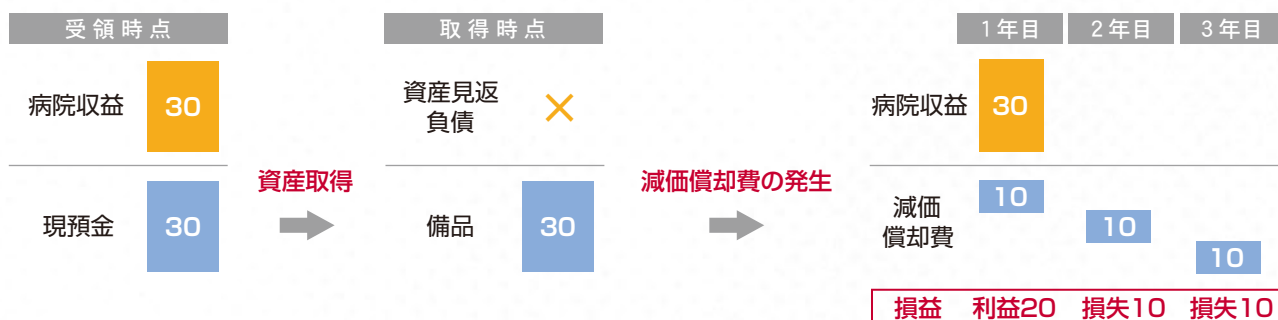
III. 現金の裏付けのない帳簿上の利益

(1) 【資産の取得に充てた病院収入と減価償却費の差から生じる利益・損失】

附属病院においては診療業務を実施したことにより病院収入が計上される（対価を伴う業務による収入）ため、企業会計と同様の会計処理を行います。

病院収入（診療報酬）を受領したときは、そのまま収益となるため、病院収入により資産を取得した場合は、現金の裏付けのない帳簿上の利益や損失が発生します。「②国立大学法人会計特有の仕組み（損益均衡）」で紹介した資産見返負債を計上することはありません。

以下の例では、1年目に利益が発生し、2～3年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の数値です。



(2) 【借入金の返済期間と減価償却期間のずれから生じる利益・損失】

附属病院の借入金は病院収入により返済しますので、病院収益の一部が毎年の返済に充てられることとなります。他方で、建物等の固定資産を取得した場合、毎年減価償却費が発生します。

借入金の返済期間と、借入金により建設した建物等の減価償却費の発生する期間が異なることから、毎年利益又は損失が生じることとなります。

以下の例では、1～20年目に利益が発生し、21～30年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の数値です。

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	16年	17年	18年	19年	20年
借入金の返済に充てる病院収益	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
減価償却費	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損益 (利益)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

借入金(60) : 1～20年目に毎年均等返済 減価償却費(60) : 1～30年目に毎年定額償却	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	累計
											60
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	60
	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	△ 2	±0

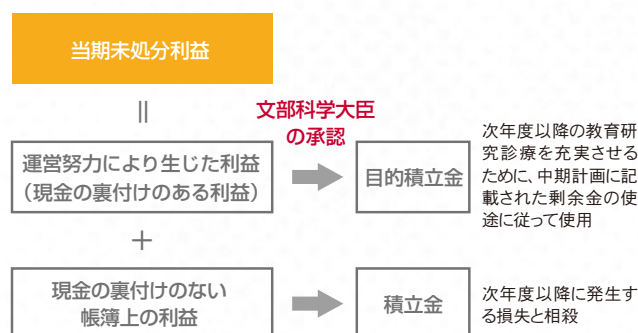
IV. 国立大学法人の利益処分

国立大学法人には、民間企業における株主のような営利目的の資本主が存在しませんので、利益を配分等として外部に分配することはありません。また、国立大学法人の利益は、「運営努力により生じた利益」と、「現金の裏付けのない帳簿上の利益」の2つに大別されます。

「運営努力により生じた利益」とは、業務の効率化による費用削減や積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。

この利益は、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣に剰余金の用途の承認申請を行い、承認を受けた金額は次年度以降の教育研究診療を充実させるために、中期計画に記載された剰余金の用途に従って使用することが認められています。

「現金の裏付けのない帳簿上の利益」とは、先に例をお示したように、収益の発生年度が費用の発生年度より先行することにより生じる利益であり、次年度以降に発生する損失と相殺されることとなります。





Chiba University Financial Report 2014

[平成25事業年度]

平成25年4月1日～平成26年3月31日

発行：国立大学法人千葉大学財務部

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：043-290-2057 FAX：043-290-2049

MAIL：caf2057@office.chiba-u.jp



●千葉大学コミュニケーションマーク

千葉大学の頭文字Cと地球をモチーフにし、世界に飛躍する大学であることを表現したコミュニケーションマークは、平成25年に本学関係者への公募により制定されました。

使用されている赤は伝統を引き継いだ大学カラーを使用し、そこに地球や空をイメージするスカイブルーを入れて、グローバルなイメージとなっており、9つの赤い部分は、現在の9学部を表しています。